B-7

ベトナム語の機能語 của, sự, không, bị の文法化過程の検証　－16～19 世紀の文献から－

東京大学大学院　博士課程　鷲澤拓也

1. はじめに

孤立語であり語形変化や接辞のないベトナム語[1] では、文法の表示は語順と機能語によりなされる。現代ベトナム語に見られる機能語のうちいくつかは、16 世紀以前には内容語であり、文法化したと考えられる。そのうちいくつかは、同じ用法の他の語に取って代わったのでなく、文法現象そのものが新たに現れたものもある。本発表では、16～19 世紀の文献中の của, sự, không, bị の 4 語の用法・使用頻度を調べ、各語の文法化の過程を検証する。

ベトナム語には顕著に弱く発音される音節がなく、接語や接辞と断定できる形態素がないため、Hopper & Traugott (1993: 130-166) にあるような接語や接辞にまで及ぶ文法化の現象はなく、内容語から機能語への文法化に限定される。ベトナム語の文法史に関して、これまで包括的・数量的な研究はなされてこなかった。[2] Nguyễn Thị Thanh Xuân (2015: 203) [3] は本研究でも取り上げる Trương Vĩnh Ký (1881) と Nguyễn Trọng Quản (1887) の中の現代語と異なる言語表現について述べているが、歴史的な変化として捉っていない。Đinh Văn Đức (2018: 515-530) は 17～18 世紀のラテン文字資料（キリスト教関係）における文法的特徴と、現代語と異なる機能語の用法について言及しており、文法史研究の端緒といえる。

2. 各文法機能語の現代ベトナム語での用法

2.1. Của

代表的な現代ベトナム語の辞典 (Hoàng Thị Tuyền Linh 2011) によると、của 所有・包含・所属・起源等の関係などを表す前置詞である。[4] 日本語の助詞「の」の意味と重なるところが多い。

(1) nhà　của　tôi
　家　の　私
　“私の家”

(2) chân　của　nó
　足　の　彼／彼女
　“彼／彼女の足”

ただし、của は省略可能な場合が多く、上記(1)、(2) のどちらでも、của を省略し nhà tôi、chân nó ということができる。Nguyễn Tài Cẩn (1976:238-239) によると、của の有無により意味が変わる場合や、被所有物と所有者を表す語の間に形容詞等が置かれて隣接しなくなる場合には、của を省略することができない。また、của の前の被所有物は明らかな場合には省略することができる (“Ø＋của+名詞”:「～の Ø」)。

---

[1] 基本語順は SVO、後置修飾。1 音節がほぼ 1 形態素となる。現代の正書法ではラテン文字により表記される。母音：a /a/;　ă /ă/;　â /ə̆/;　e /ɛ/;　ê /e/;　i, y /i/; o /ɔ/; ô /o/;　ơ /ə/; u /u/; ư /ɯ/　子音：b /b/;　c, k, q(u) /k/; ch /c/([tɕ]);　d, gi /z/ [z];　đ /d/;　g, gh /ɣ/;　h /h/;　kh /x/;　l /l/;　m /m/;　n /n/;　ng, ngh /ŋ/;　nh /ɲ/;　p /p/; ph /f/;　r /z/([z]~[ʐ]);　s /s/ ([s]~[ʂ]);　t /t/;　th /tʰ/;　tr /c/ ([tɕ]~[tʂ]);　v /v/;　x /s/ ([s])　声調（調値）: a 44;　à 21; á 35; ả 312;　ã 325 (喉頭化を伴う); ạ 31(喉頭化を伴う)（川本 2011:1906-1913）。16 世紀までは、漢字の組み合わせ・変形・転用により作られたベトナム固有の表語文字チュノム（字喃）での表記に限られ、17 世紀以降にラテン文字表記が用いられるようになっても、20 世紀前半までチュノムは併用された。

[2] 機能語は内容語との判別が難しい場合も多く、語彙論の一部としても扱われやすい。またベトナム語史の研究一般にいえることとして、19 世紀半ばまで（主な書記言語が漢文）、特に 16 世紀以前（ラテン文字表記考案前）のベトナム語の資料の少なさが障壁となっている。

[3] ベトナムの慣習に従い、ベトナム人の著者はフルネームで記す。

[4] 他に、「財産」や「食べ物」を表す名詞の記載があるが、古風・慣用的な言い回しでの用法に限る。

2.2. Sự

現代ベトナム語の辞典 (Hoàng Thị Tuyền Linh 2011) によると、sự は「事 (việc)、話 (chuyện)」を表す名詞、また、活動・動作や性質を名詞化（事物化）する働きを持つ名詞である。前者の用法は、古風または慣用的なものに限られる。挙げられている例は、sự đau đớn「苦痛」（đau đớn: 痛ましい）、sự cố gắng「努力」（cố gắng: 頑張る）等。

Đặng Ngọc Hướng (2010: 61)によると、名詞化のために主に用いられる名詞は sự と việc の 2 つだが、sự は動詞（または形容詞）のみの名詞化であるのに対し、việc は動詞句または節全体の名詞化であり、việc により名詞化される内容はより具体的である。Sự の後には常に 2 音節以上[5] の動詞または形容詞が置かれる (Đặng Ngọc Hướng 2010: 53)[6]、"sự + 動詞" の後に動詞の目的語を置く場合は前置詞が必要 (Đặng Ngọc Hướng 2010: 71)、という制約もあり、việc と対照的である。[7]

(3) Kỳ vọng {sự / *việc} phát triển của kinh tế Việt Nam [8]
祈望する 名詞化 発展させる ～の 経済 ベトナム
"ベトナム経済の発展を祈望する。"

(3') *Kỳ vọng sự phát triển Ø kinh tế Việt Nam.

(4) Tôi tức giận anh ta. → (4') sự tức giận đối với anh ta của tôi "彼に対する私の怒り"
私 怒る 彼 (4") ? sự tức giận của tôi đối với anh ta （đối với:「～に対して」）
"私は彼を怒る" (4"') * sự tức giận anh ta của tôi

2.3. Không

Không は動詞の前に置かれて否定、文末に置かれて諾否疑問を表す副詞である。数字の「ゼロ」や、用例は稀だが「空(から)の」「虚しい」を表す形容詞、「何もないところ」「空(くう)」の意の名詞としても用いられる。(Hoàng Thị Tuyền Linh 2011)

2.4. Bị

Bị は現代ベトナム語において、主語が喜ばしくないまたは利益のない動作を被ることを表す動詞とされる。(Hoàng Thị Tuyền Linh 2011) 受身を表す場合に頻繁に用いられる。[9] 例：

(5) Nó bị bố đánh.
彼 被る 父 殴る
"彼は父に殴られた。

---

[5] ベトナム語では 1 音節の語は具体的、2 音節以上の語は抽象的な意味を持つ傾向がある。
[6] Sự sống「命」（sống: 生きる）と sự chết「死」（chết: 死ぬ）は例外。
[7] 文の構造が複雑な場合以外、việc は 2 音節以上の動詞の前に来ることは稀である (Đặng Ngọc Hướng 2010: 50)。例文 (4) の「怒る」ような、状態や長期間にわたる行動は việc で名詞化できない (同 p. 53)。
[8] Việc を使った名詞化の場合、việc phát triển kinh tế của Việt Nam "ベトナムの経済を発展させること" (Đặng Ngọc Hướng 2010: 61)
[9] Bị が用いられるのは必ずしも受身に限らない。例：Tôi bị ngã. 「私は倒れた。」（ngã: 倒れる） なお、迷惑でなく恩恵を被る受身の場合には được を用いて同様の構文で表される。

3. 分析対象文献

16～19 世紀の各世紀から代表的な文献を 1 点ずつ取り上げ、主な分析対象とする。[10] 16 世紀 :『新編傳奇漫録 (*Tân biên Truyền kỳ mạn lục*)』[11]、17 世紀 : Rhodes (1651) 『8 日間の講義』（略称）[12]、18 世紀 : ルイ神父が教会の各聖職者と信徒たちに送った手紙（以下、「ルイの手紙」）（1755 年）[13]、19 世紀 : Trương Vĩnh Ký (1881)『北圻訪問』（略称）[14]

4. 対象文献中での用例

上記 4 文献における分析対象の 4 語の用法は、現代の機能語としての用法と異なるものが多い。

・Của

(6) 漢: 積財如熾火 [財を積むこと熾火のごとし]　（16 世紀『新編傳奇漫録』<I:56a:7>）[15]

喃: 積　貼　朋　焺　盛

Tích　của　bằng　lửa　thịnh.

積む　財産　～のように　火　盛んな

"財産を燃え盛る火のように積んだ。"

(7) Chớ　tham　của　người!　（17 世紀『8 日間の講義』p. 302）

～するな　貪る　もの　人

"人のものを貪ってはならない。"

・Sự

(8) 漢: 遂夫妻講歡論舊 [遂に夫妻歡を講じ舊を論ず]　（16 世紀『新編傳奇漫録』 <IV:38a:3>）

喃: 卞　媒　𡚬　講　事　盃　論　事　婁

Bèn　vợ　chồng　giảng　sự　vui,　luận　sự　cũ,

すぐに　妻　夫　講ずる　事　嬉しい　論じる　事　古い

"そこで夫婦は嬉しかったことを語り合い、昔のことを論じ合った。

(9) sẽ　nói　về　sự　đi　xuống　Phát Diệm　（19 世紀『北圻訪問』 p. 21）[16]

意思　言う　～について　事　行く　下る　ファットジエム（發艷、地名）

"後でファットジエムに下ることについて言うつもりだ"

---

[10] 成立年代が明確または定説があること、大部分が散文であること、現代式の表記に転写されたものが出版されていること、電子データがあること、文献に対して言語学の先行研究があることを基準に選定した。

[11] 16 世紀末に漢文で書かれた伝奇（幽霊、妖怪、霊界などを扱う）の説話集（『傳奇漫録』）に古ベトナム語（チュノム）の訳文が割注で書かれた対訳資料。4 巻からなり、5 話で 1 巻を成す。原作者は阮嶼（げんよ、Nguyễn Dữ）、翻訳者は阮世儀 (Nguyễn Thế Nghi) とされる。漢文で書かれているが、場面や登場人物はベトナムのものである。Nguyễn Quang Hồng (2001) に 1774 年版の刊本のコピーと、チュノム訳文部分のラテン文字翻字がある。

[12] ラテン文字表記が考案後早い時期に書かれた代表的なカトリックの教理書。ラテン語との対訳。

[13] Đoàn Thiện Thuật (2008 : 270-273) に収録、現代式翻字がある。18 世紀の希少なラテン文字資料。

[14] 近代文学の先駆けとなる代表的な作品の 1 つ。北部ベトナムの旅行記（随筆）。

[15] 「漢」は漢文の原文（便宜的に日本式訓読を付す）、「喃」はチュノムによる古ベトナム語の訳文、その次の行に、現代正書法に準じたラテン文字翻字、グロス、訳文。「<>」の中は順に、巻数（I～IV）、頁数（a は表、b は裏）、行数で、例文の最初の漢字の箇所を表す。

[16] Sự の後に 2 音節の動詞が続いているが、đi と xuống それぞれの独立性が高く、その後 Phát Diệm の前に前置詞がないため、現代語の用法とは異なる。

・Không

(10) 漢: 色是空空是色[色是(こ)れ空、空是(こ)れ色なり] （『新編傳奇漫録』<I:79a:2>）

喃: 色是空空是色

Sắc　ấy　<u>không</u>,　<u>không</u>　ấy　sắc

色　それ　空　空　それ　色

“色は空(くう)であり、空(くう)は色である。”

(11) 漢: 獨處空房 [獨(ひと)り空房に處(を)る] （『新編傳奇漫録』<IV:8a:4>）

喃: 蔑 夸　於　蠭　空

Một mình　ở　buồng　<u>không</u>.

ひとり　いる　部屋　空の

“ひとりで何もない部屋にいた。”

(12) xác　không （17 世紀『8 日間の講義』、18 世紀『ルイの手紙』　各所）

肉体　空の／虚しい

“空の(虚しい)肉体”

・Bị

(13) Vua An Dương Vương bị　tinh　gà ác　và　phục quỷ núi　Thất Diệu（19 世紀『北圻訪問』p. 8）

王　安陽王　被る　悪霊　烏骨鶏　と　悪魔　山　タットジエウ（七曜）

“安陽王は烏骨鶏の悪霊とタットジエウ山の悪魔にやられた（魔法をかけられた）”

5. 数量的分析

各分析対象文献の中で、各語が出現する回数（全体）と、そのうちで現代ベトナム語の文法機能語と同様の用法で用いられている回数[17]、およびその割合（%）をまとめると、下の表のようになる。

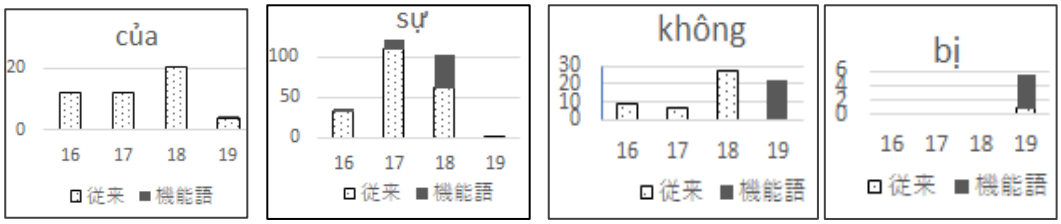
文献	新編傳奇漫録			8 日間の講義			ルイの手紙			北圻訪問		
年代	16 世紀末			1651 年			1755 年			1881 年		
総音節数			44,638			52,513			1,460			12,583
	全体	機能語	割合	全体	機能語	割合	全体	機能語	割合	全体	機能語	割合
của	55	0	0	63	0	0	3	0	0	6	1	16.7
sự	161	18	11.2	571	75	13.1	15	6	40.0	3	0	0
không	40	0	0	32	0	0	4	0	0	28	28	100.0
bị	0	0	-	0	0	-	0	0	-	7	6	85.7
合計	256	18	7.0	666	75	11.26	22	6	27.3	44	35	79.5

文献の音節数を 1 万音節に均した時の出現数と、そのうちの機能語の出現数をグラフにすると、次頁のようになる。（横軸の数字は世紀。「従来」=「全体」－「機能語」）この結果と、他の各種資料[18]を照ら

[17] 機能語か内容語かの判別が難しい場合、現代語の統語的条件を満たすものは機能語と見なした。

[18]『佛説大報父母恩重經』（12 世紀または 15 世紀の漢文-チュノム・ベトナム語対訳仏教書）、『國音詩集』（15 世紀のチュノムの詩集、Trần Trọng Dương (2014) に全文あり）、Maiorica (1623)（17 世紀前半のチュノムのカトリック問答式教理書）、18 世紀の 41 通の手紙（Đoàn Thiện Thuật (2008) に全文あり）、Nguyễn

し合わせると、少なくとも書かれた言語においては、của と sự は 19 世紀末以降、không と bị は 18 世紀後半から 19 世紀前半に、文法化されたと見ることができる。



6. 同様の文法事項を表す従来の表現

Không の文法化と並行し、それまで否定の副詞として一般的だった chẳng や chăng の頻度は減少する[19] が、他の 3 つの所有、名詞化、受身の表現に関しては、của、sự、bị が他の語にとって代わったということがなく[20]、これらの文法事項は新たに機能語によって表されるようになったということができる。

7. 結論

現代語ベトナム語において文法機能語として頻繁に用いられているものが、18 世紀以降に文法化されたことを明らかにすることができた。これらの語は名詞や動詞・形容詞に由来するもので、Hopper & Traugott (1993: 94-129) の述べる一方向性に合致する。[21]

また、ベトナム語における所有、名詞化、受身といった文法事項の表現が 18 世紀以降に出現したことも明らかになった。このことは、書記言語として用いられることが限られていたベトナム語が、書記言語として用いられるようになり、より複雑な表現に堪えうる言語となる必要が生じるに際して、高級語彙と共に文法表現も新たに備えた文体を発達させていったことを示す足掛かりとなる。

参照文献：

Ban văn học Hội Khai trí tiến đức khởi thảo (1931) *Việt-Nam Tự-điển* [ベトナム字典]. Hà Nội: Imprimerie Trung Bac,.

Đặng, Ngọc Hướng (2010) *Danh ngữ tiếng Anh đặc trưng cú pháp – ngữ nghĩa thành tố (Liên hệ đối chiếu với tiếng Việt)* [英語の名詞句：各要素の統語・意味的特徴（ベトナム語との対照）] Hà Nội: Nhà xuất bản Khoa học xã hội.

Đinh, Văn Đức (2018) *Tiếng Việt lịch sử trước thế kỷ XX: Những vấn đề quan yếu* [ベトナム語、20 世紀以前の歴史：いくつかの重要な問題]. Hà Nội: Nhầ xuất bản Đại học Quốc gia Hà Nội.

Đoàn, Thiện Thuật (収集,編集)(2008) *Chữ Quốc ngữ Thế kỷ XVIII* [18 世紀のｸｫｯｸｸﾞｰ] Hà Nội: Nhà xuất bản Giáo dục.

Hoàng, Dũng & Nguyễn Thị Ly Kha (2004) Về các thành tố phụ sau trung tâm trong danh ngữ tiếng Việt [ベトナム語

Trọng Quản (1887) （19 世紀のベトナム初の近代的散文小説、ラテン文字）、各時代の辞書 (Rhodes 1651, Taberd 1838, Huình Tịnh Paulus Của 1895, Ban văn học Hội Khai trí tiến đức khởi thảo 1931, Hoàng Phê 1988)。

[19] Chẳng の方がより一般的で、chăng は二重否定等の特殊な場合や諾否疑問に使われた。現代ベトナム語では chẳng qua「～に過ぎない」（qua: 過ぎる）等の固定的な表現にのみ使われる。19 世紀『北圻訪問』では、chẳng の使用は 3 回（うち 1 回は上述の chẳng qua）、chăng は 2 回にとどまっている。

[20] 所有に関しては、被所有物と所有者の間に何も置かずに並べるのが一般的で、現代語の của の省略可能規則に反する場合も多い。ただし「自分の」「彼／彼女／それの」を表す thửa という語（名詞に前置）が 16 世紀まではあった。また漢語の「之」を訳すために chưng という語が使われた。17 世紀には “về” （帰る、帰する）を前置詞として用いて所有を表していると見られる例もある。受身は、「被る」の意の phải という語が用いられることはあったが、“phải + 動作主 + 動詞” のみで受身を表現することはできない。

[21] これらの語（特に của）の再分析の過程 (Hopper & Traugott 1993:40-48) はまだ明らかになっていない。

の名詞句において核に後置される要素について], *Ngôn ngữ* [言語] 2004, số 4, pp.25-34.

Hoàng, Phê 主編 (1988) *Từ điển tiếng Việt* [ベトナム語辞典]. Hà Nội: Nhà xuất bản Khoa học Xã hội.

Hoàng, Phê 主編 (2011) *Từ điển tiếng Việt* [ベトナム語辞典]. Hà Nội, Đà Nẵng: Nhà xuất bản Đa Nẵng, Trung tâm Từ điển học.

Hoàng, Thị Ngọ (1999) *Chữ Nôm và tiếng Việt qua bản giải âm Phật thuyết Đại báo phụ mẫu ân trọng kinh* [『佛説大報父母恩重經』解音資料を通してのチュノムとベトナム語]. Hà Nội: Nhà xuất bản Khoa học Xã hội.

Hopper, Paul J. & Elizabeth Closs Traugott (1993) *Grammaticalization*. Cambridge: Cambridge University Press.

Huình, Tịnh Paulus Của (1895-1896) *Đại Nam quấc âm tự vị* (大南國音字彙). Saigon: SaiGon Imprimerie REY, CURIOL & Cie; Saigon: Nhà xuất bản Trẻ (1998 再版).

川本邦衛編 (2011)『詳解ベトナム語辞典』東京：大修館書店.

Maiorica, Jeronimo (1623) *Thiên Chúa Thánh giáo khải mông* (天主聖教啓蒙). ラテン文字翻字版：(2003) Hà Nội: Lưu Hành Nội Bộ Giáo hội Công giáo.

Nguyễn, Hoàng Anh (2004) *Đặc trưng cấu trúc và ngữ nghĩa của danh ngữ tiếng Hán hiện đại (trong sự đối chiếu với tiếng Việt)* [現代漢語の名詞句の構造と意味の特徴（ﾍﾞﾄﾅﾑ語との対照にて）], 文学博士論文 5.04.08.

Nguyễn, Quang Hồng (翻音、註解) (2001) Nguyễn Dữ (漢文原作), Nguyễn Thế Nghi (字喃文訳) *Truyền kỳ mạn lục giải âm* [傳奇漫録解音] Hà Nội: Nhà xuất bản Khóa học Xã hội, Hà Nội.

Nguyễn, Thị Thanh Xuân (2015) *Chuyến đi Bắc Kỳ năm Ất Hợi* và *Thầy Lazarô Phiền*, đặc điểm văn bản và những đóng góp vào sự phát triển của chữ-văn Quốc ngữ nửa cuối thế kỷ XIX [『乙癸年北圻訪問』と『ﾗｻﾞﾛ･ﾌｨｴﾝ先生』、文献的特徴と 19 世紀後半のｸｫｯｸｸﾞｰ発展への貢献]. *Tạp chí Phát triển Khoa học và Công nghệ* 5X: 200-208.

Nguyễn, Trọng Quản (1887) *Thầy Lazaro Phiền* [ラザロ・フィエン先生]. Sài Gòn: Nhà xuất bản J. Linage.

Rhodes, Alexandre de (1651a). *Cathechismus pro ijs, qui volunt suscipere Baptismus, in octo dies divisus. Phép giảng tám ngày cho kẻ muốn chịu phép rửa tội mà vào đạo thánh đức chúa blời*. [罪の洗礼を受け神の聖教に入ることを願う者のための 8 日間の講義], Roma: Sacrae Congregationis de Propaganda Fide. 原本のｺﾋﾟｰ、現代式ﾍﾞﾄﾅﾑ語表記法への翻字、およびﾌﾗﾝｽ語訳：Nguyễn, Khắc Xuyên 編 (1993) Thành phố Hồ Chí Minh: Tủ Sách Đại kết.（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｰﾀ: http://vi.wikisource.org/wiki/Phép_giảng_tám_ngày [2018 年 10 月アクセス] をもとに作成）

Rhodes, Alexandre de (1651b). *Dictionarium Annamiticum Lusitanum et Latinum* [安南語-ポルトガル語-ラテン語辞典]. Roma: Sacrae Congregationis de Propaganda Fide. コピーと現代ベトナム語訳：Thanh Lãng ほか訳(1991) Thành phố Hồ Chí Minh: Nhà xuất bản Khoa học Xã hội.

Taberd, Jean-Louis (1838) *Dictionarium Annamitico-Latinum* [安南語ーラテン語辞典]. Serampore: Marshman.

Trần, Trọng Dương (2014). *Nguyễn Trãi Quốc âm Từ điển* [阮廌國音辞典]*: A Dictionary of 15th Century Ancient Vietnamese.* Hà Nội: Nhà xuất bản Từ điển Bách khoa.

Trương, Vĩnh Ký (1881) *Chuyến đi Bắc Kỳ năm Ất Hợi 1876* [1876 乙癸年の北圻訪問]. Saigon: Ban-in Nhà Hàng C. Guilland et Martinon. コピーと英訳：P. J. Honey 訳 (1982) *Voyage to Tonking in the Year Ất-Hợi (1876)*. London: School of Oriental and African Studies, University of London.（ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｰﾀは http://vanhoanghean.com.vn/muc-luc2/chuyen-di-bac-ky-nam-at-hoi1876 [2018 年 10 月アクセス]をもとに作成）